

文系にも「ALES S」

来年度から 論文講読、執筆・発表も 教養前期

教養学部前期課程で来年度から、文科1年生全員を対象にした英語論文執筆授業「ALES S」が開講されること分かった。ALES Sは、理科1年生向け必修授業「ALES S」の関連授業として位置付けられる。また、既存の英語一列の授業を大幅に刷新する

予定も明らかになった。ALES Sは「Active Learning of English for Students of the Arts」の略。ALES Sと同様、「英語一列(P)」として文科1年生向け必修科目として開講される。1クラス15程度の少人数授業で、すべて英語で行われる

教養前期課程の英語教育(現行)

	1年		2年	
	夏学期	冬学期	夏学期	冬学期
文系	英I (水曜3限)	英I (水曜3限)	—	—
	英II (読解)	英II(会話) 英語演習 英文IIIのみ	英II (発表)	—
理系	英I (水曜2限)	英I (水曜2限)	—	—
	英II (ALES S)	英II (読解)	英II (会話)	—

※英IIの順序はクラスごとに指定

ことや、英語で短めの論文を執筆できることを目指すという目的も共通している。

ALES Sでは受講生一人一人が簡単な理科実験を計画し実行するが、ALES Sでは人文科学系や社会科学系の学術論文や読解を中心とする。

執筆技術の指導では、一般的な文系向け英語論文構成を学ぶとともに、「argument」(論証)の部分に特に注力が見られる予定。また将来一般企業や官公庁に勤める中で外国人と議論する場面を想定し、英語による発表や討議にも重心が置かれる。

から、各教員が自由に選んで学生に提供する。文章は原文のままではなく教材として扱いやすいよう短く編集。書き下ろしテキストを用いる予定は未定だ。

ALES Sプログラム責任者のトム・ガリー准教授(総合文化研究科)によると「ALES S開始時から文系学生向けに実施する計画はあった」。ALES Sのノウハウを生かすほか、今年度夏・冬学期にALE Sの試行的授業を通して「開講に向けて新規に6人の詳細を語る。ALES S一特任教員を採用する。

英Iは少人数化へ 授業時限も多様化か

英語部会の教員数に余裕ができることを受けて、全科類の1年生が受講する必修科目「英語一列」(英I)の幅に新しくする計画が進んでいる。

現在の英Iは、理科生は

修科目「英語一列」(英I)の幅に新しくする計画が進んでいる。

授業を、来年度から少人数化や授業時限の変更など天



第51回全国育大会(七太技が始まり、校の九州大でれた。7月末技が実施され大阪大、東大位。過去9回は、この16年選さかっお勝に期待がか、開会式では、援団がデモン(写真)。また外の6大学が寄った自校の披露し、九州大と交換した。東